

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第59回『本当のプロとは ～世代を超えて～』

2021年5月29日 続いて、5月30日も放送大学 埼玉学習センター での Zoom 講義に赴いた。『がん哲学』{(2004年3刷 (to be 出版)、2007年2刷 (改訂版)、2009年 (新訂版;立花隆氏と対話)、2011年 (EDITEX))の『第2章：がん細胞の知恵に学ぶ』、『第3章：先人の志を継承しつつ』、『第4章：病理学の復権を』からの箇所を音読しながら進めた。真摯な質問が多数あり、大いに感動した。『がん哲学』の発行は、17年前であるのに、今でも、新鮮な学びとなった。『プロの為さざること』5か条(下記)が、鮮明に蘇って来た。

- 1) 「プロは人をその弱きに乗じて苦しめず」
- 2) 「プロは人に悪意を帰せず」
- 3) 「プロは人の劣情に訴えて事を為さず」
- 4) 「プロは友人の秘密を公にせず」
- 5) 「プロは人と利を争わず」

昼休みには、CD『音楽の処方箋』の曲が流された。高野みどり先生(元放送大学客員准教授)の授業では、ドキュメンタリー映画『がんと生きる言葉の処方箋』のDVDが使用された。皆様の心温まるおもてなしには、大いに感激した。筆者は、下記のレポート課題を与えた。

がんの告知 ～ 問われる医師の人格 ～
人間社会のがん化 ～ がん細胞のリハビリ ～
ビジョンは、世代を超えて ～ 百年の計の根拠 ～
本当のプロとは ～ 真の独創性に立って ～

年内に市民公開シンポジウム『コミュニケーション・ケアの時代に向けて』が、企画される予感がする。「病院と患者をつなぐ懸け橋」は、時代的要請である。2021年5月22日の『新渡戸稲造セミナーハウス』開設キックオフ(早稲田奉仕園に於いて)に続いて、8月14日は『新渡戸稲造セミナーハウス』学会

設立キックオフ シンポジウム（成城ホールに於いて）が、企画されるようである。『新渡戸稲造セミナーハウス』学会設立の「速効性と英断」には、不思議な時の流れを痛感する日々である。